

ビキニ船員労災訴訟に関する学習懇談会への参加の呼びかけ

各 位

2021年10月 日

呼びかけ人

船員保険訴訟原告団	下 本 節 子
高知県太平洋核被災支援センター	濱 田 郁 夫
医師	聞 間 元
弁護士（高 知）	南 拓 人
同 （東 京）	内 藤 雅 義
日本原水爆被害者団体協議会	

1954年3月1日にビキニ環礁でアメリカ水爆実験（ブラボー爆発）による焼津のマグロ漁船第五福竜丸漁船員23名が被災したことは、皆様ご存知かと思えます。この事件は、日本の原水禁運動の大きなきっかけとなりました。全国で3000万人の原水爆禁止の署名が集められ、翌1955年8月には第1回原水爆禁止大会が開催され、1956年8月には、原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が結成されます。そして、1957年4月には、原爆医療法の施行へと進みます。

ブラボー爆発は、1954年3月から同年5月にかけての6回にわたるマーシャル海域におけるアメリカによるキャッスル作戦と呼ばれる一連の水爆実験の最初の核爆発であり、第五福竜丸ある以外にこれら水爆実験による放射性物質の影響を受けた漁船を中心とする船舶数は延べ1000隻に及ぶとされています。

ところが、第五福竜丸の久保山愛吉無線局長が1954年9月に死亡したことに伴う原水爆反対の声の拡大、更には日本の科学者の乗った船舶による放射線影響の調査を知ったアメリカ政府の危惧を受けて、日米政府は、第1回原水禁大会も開かれる前である1955年1月、放射性物質の人体影響を第五福竜丸にのみ限り、それ以外は漁業補償に絞って見舞金200万ドルで決着する合意が結びました。その結果、原水禁運動がビキニ被災をきっかけに始まったにもかかわらず、原爆医療法は、原爆被爆者に限られ、また、1955年10月のフランシスレポートを基礎に ABCC による原爆の直曝放射線量を基礎とする放射線影響の追跡調査が進められましたが、マーシャル船員被災者に関しては、第五福竜丸について放射線医学研究所による追跡調査がなされたただけでした。このようにしてマーシャル海域の被災船員たちは放置され、調査もされないままになったのです。

ところが1985年高知の原爆被曝者を調査していた教師と高校生たちが、原爆に被爆し、マーシャルでも被災した船員と出会います。これをきっかけに高知県内にマーシャル海域で被災し、体調不良となった多くの漁船員が存在することが明らかになりました。

高知を中心に被災漁船員の調査が行われ、調査に基づき船員及びその遺族が病気や死亡が被災に伴う放射線の影響によるものだとして、船員保険に基づき、その保険者である全国健康保険協会（協会けんぽ）に対して、療養補償給付や、遺族給付を申請しました。しかし、

協会けんぽは、厚生労働省の支援を受けて設置した専門家による有識者会議(座長明石真氏)の報告書を基礎に申請を却下し、最終的に再審査請求も棄却されました。

そこで、2020年3月30日、船員及び遺族は、協会けんぽを被告として、却下処分の取消を求める訴訟を提起するとともに、1955年1月の日米政府の合意によってなされた請求権の放棄は憲法29条3項に反するとして、国に対して損失補償請求を求めて提訴しました。これに対し、高知地裁は、実質審理を行わないまま、本年3月両訴訟ともに東京地裁に移送する決定をしましたが、去る9月〇日に、高松高等裁判所は、却下処分取消については東京地裁で、損失補償については高知で審理する決定をしました。

このような経過を踏まえ、高知在住の原告団代表の下本。被災船員の調査・支援を継続している濱田、ビキニ被災船員の船員保険申請について医療面の意見を述べてきた聞間、高知で船員の代理人代表をしてきた南、そして、東京で弁護団の受け皿を準備している内藤、同じ放射線被害者として放置できないと考えている日本被団協の田中が呼びかけ人となって、高知に加え、東京更には全国の支援を進めるために、以下のような学習会と今後の運動の進め方についての懇談会を持ちたいと考え、本書により呼びかけるものです。

コロナウイルスの関係もあり、オンラインでの開催を考えていますが、是非、多数の皆様にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

つきましては、学習懇談会に参加を希望されるかのご連絡をいただけると幸いです。

学習懇談会の開催要領

1、開催予定日時

以下の日のいずれも午後6時から2時間程度

10月28日(水)

10月29日(木)

11月 1日(月)

2、開催形式 オンライン

3、学習会の内容

- | | |
|------------------|--------------|
| 1) これまでの運動と訴訟の経過 | 高知(原告及び現地支援) |
| 2) 訴訟の状況 | 南(補充内藤) |
| 3) 医学的問題点 | 聞間 |

4 懇談会

自己紹介

今後の進め方についての懇談

できれば、方向性について議論をしたい。